

第4回稲沢市観光基本計画推進委員会 会議録

【日時】令和3年3月2日（火）午後2時～午後4時7分

【場所】稲沢市産業会館1階 大会議室

【出席者】稲沢市観光基本計画推進委員会委員（敬称略）

委員長	大澤 健	和歌山大学経済学部教授
副委員長	榊原 仁	一般社団法人愛知県観光協会専務理事
委員	栗林芳彦	名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科教授
	西村哲治	公益社団法人日本観光振興協会中部支部事務局長
	古川正美	稲沢市観光協会事務局長
	服部正見	稲沢商工会議所理事兼事務局長
	桜木三喜夫	祖父江町商工会事務局長
	南谷一夫	平和町商工会事務局長
	長野由路	名古屋鉄道株式会社 グループ事業推進部販売促進担当課長兼ツーリズム推進担当課長
	河村宏一	愛知西農業協同組合常務理事（経済担当）
	松田雅之	尾張大國霊神社権禰宜
	林 和伸	善光寺東海別院副住職
	杉山佳幸	国土交通省中部地方整備局木曽川上流河川事務所河川公園課長
	大野芳樹	公募市民
	吉田恵子	公募市民

【事務局】	足立和繁	稲沢市経済環境部次長兼商工観光課長
	加藤敦史	稲沢市経済環境部商工観光課主幹
	大屋 将	稲沢市経済環境部商工観光課主査
	酒井仁志	稲沢市観光協会観光コーディネーター兼事務局次長

【傍聴者】 2名

【会議次第】

- 1 委嘱状交付
- 2 市あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 正副委員長の選出
- 5 協議事項
 - (1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について
 - (2) 次年度の取組方針について
 - (3) その他
- 6 その他

【会議の概要】

[事務局]

定刻となりましたので、ただ今から稲沢市観光基本計画推進委員会を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、また足元が非常に悪い中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。私は、この会議の進行を務めます稲沢市経済環境部商工観光課主幹の加藤敦史と申します。よろしくお願いたします。

1 委嘱状交付

[事務局]

この度は委員就任につきまして、ご快諾をいただき誠にありがとうございました。皆様のお手元に委嘱状を配付させていただいております。本来であれば委員お一人ずつに交付させていただくところですが、時間の都合上、このような形に替えさせていただきました。ご了承いただきますようお願いいたします。なお、本日、愛知県観光コンベンション局観光振興課長であります小島 馨委員におかれましては、公務の都合により欠席される旨ご連絡をいただいております。

続いて2点お願いがございます。この会議は、本日参考資料としてお配りしております「稲沢市観光基本計画推進委員会の運営に関する確認事項」に基づき公開となっており、本日2名の方が傍聴されています。また、会議後は事務局で会議録を作成し、ホームページ等で公開させていただきますのでお願いいたします。

次に、本日は会場が広くなっておりますので、誠に恐れ入りますが、ご発言いただく際はマイクをお使いいただきますようお願いいたします。その際に、新型コロナウイルスの感染防止対策として、担当者がマイクを消毒の上、お持ちしますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、会議を進めさせていただきます。はじめに会議の開催に当たり、経済環境部次長兼商工観光課長の足立からごあいさつを申し上げます。

2 市あいさつ

[市経済環境部次長兼商工観光課長]

皆様こんにちは。稲沢市経済環境部次長兼商工観光課長の足立和繁です。本日はご多忙の中、稲沢市観光基本計画推進委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、本推進委員会の委員就任につきまして、快くお引き受けいただき、改めてお礼を申し上げます。

この推進委員会は、2018年3月に策定しました「稲沢市観光まちづくりビジョン」に基づく取組を実行的かつ効果的に推進していくため、計画の進行管理と稲沢市の観光まちづくりの推進に向けた助言・提言を担う組織として設置されたものです。3月1日付けで皆様に委員を委嘱させていただきました。今後2年間の任期となりますので、よろしくお願いたします。

さて、2020年度を振り返りますと、新型コロナウイルスによる困難の1年であったと改めて思います。地域社会の経済活動が深刻な影響を受ける中、稲沢市としましてもその対策として、年度当初から市内の小規模事業所への「新型コロナウイルス感染症対策協力金」の支給や、感染予防対策、売上改善等の取組を支援する「いなざわ事業者げんき補助金」の支給等を行ってまいり

ました。その後も消費喚起のためのプレミアム付き商品券「いなざわ飲食・商店エール券」の発行、さらに現在は、売上を大きく落とした飲食店の支援策として「新型コロナウイルス対策飲食店支援金」の申請受付を行っているところです。

一方、観光面におきましても、年間を通じて祭りやイベントが軒並み中止となりました。行動自粛要請等もあった中、稲沢市観光協会を中心に「おうちで盆踊り」や「信長くん育成スタンプラリー」を始めとするオンライン型イベントの実施、感染予防対策を徹底しながらの団体旅行客の受入など、コロナ禍における地域交流・地域経済の下支えとなる取組を進めてまいりました。

政府は先日発表した2月の月例経済報告において、国内の景気動向を「持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる」とし、その判断においては「個人消費の低調」、特に緊急事態宣言が延長となり、旅行や外食の減少が続いたことが影響を及ぼしていると示しています。

観光にとって依然厳しい状況が続いていますが、ワクチンの普及等により新型コロナウイルスに対する感染リスクの不安が払拭されるまでは、感染症の存在を前提とし、感染拡大防止と観光振興の両立を図っていかねばいけないと考えます。観光需要の回復に向けて、歩みを止めることなく、引き続き「稲沢市観光まちづくりビジョン」の推進に取り組んでまいりたいと考えますので、委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場から忌憚の無いご意見、ご提案をいただきますようお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

3 自己紹介

[事務局]

本日は委員を委嘱させていただいてから初めて開催する会議となりますので、恐れ入りますが、皆様に自己紹介をお願いしたいと存じます。大変恐縮ですが、お手元の「稲沢市観光基本計画推進委員会委員名簿」に従い、大澤 健様から順にお願いいたします。

<名簿掲載順に自己紹介>

[事務局]

続いて、事務局側の自己紹介をさせていただきます。

<事務局の自己紹介>

4 正副委員長の選出

[事務局]

続きまして、委員長、副委員長の選任に移ります。選任については、稲沢市観光基本計画推進委員会設置要綱第6条第1項の規定により、委員の互選となっております。ご異議等が無ければ、事務局案を提案させていただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

<「異議無し」の声>

[事務局]

それでは、提案させていただきます。委員長として和歌山大学経済学部教授の大澤 健委員、副委員長として愛知県観光協会専務理事の榊原 仁委員にお願いしたいと考えますが、皆様いかがでしょうか。

<「異議無し」の声>

[事務局]

ありがとうございました。ご異議も無いようですので、委員長については大澤 健 委員が、副委員長については榊原 仁委員が選任されました。恐れ入りますが、お二人には正面の委員長席、副委員長席へご移動いただきますようお願いいたします。

<委員長、副委員長は各席へ移動>

[事務局]

ありがとうございました。それでは、これより議事に移らせていただきます。

本日の協議事項は、お手元のレジメに記載のとおり、「稲沢市観光まちづくりビジョンの進捗状況について」、「次年度の取組方針について」、「その他」の3点でございます。委員の皆様方から多様な意見をいただき、その内容を今後の計画の推進に反映していきたいと考えております。限られた時間ではございますが、ご審議賜りようよろしくお願いいたします。

会議の議事進行につきましては、本委員会の設置要綱の規定により、委員長が務めることになっておりますので、以後の会議の取り回しにつきましては、大澤委員長にお願いいたします。

5 協議事項

(1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について

(2) 次年度の取組方針について

[委員長]

委員長を務めます大澤と申します。改めまして皆さん、よろしくお願いいたします。

初めてお会いする方もいらっしゃると思いますので、なぜ和歌山の人が委員長をやっているのかと思われるかもしれません。実は愛知県の事業で「あいち観光まちづくりゼミ」という取組があり、その座長を11年務めています。県内各地の方々が様々な旅行プランを出し合うという取組で、それと共に実施される年2回のモニターツアーにも参加してきました。これらを重ねた結果、愛知の観光については誰よりも詳しいのではないかと考えています。愛知県の方はあまり愛知の観光のことをご存じないので、こうして私が愛知の観光のために県外から来ていることに対して、少し珍しい感じがするかもしれません。稲沢市とのご縁ですが、今から4年前その「あいち観光まちづくりゼミ」に稲沢市の職員の方が参加された際にお声がけをいただき、「観光まちづくりビジョン」の作成段階から関わってきました。その流れで今回も僭越ながら委員長の役目を務めさせていただきます。足立次長のごあいさつの中にもありましたが、新型コロナウイルスはどのようなようありません。どこへ行っても新型コロナと観光は切り離せない関係になっています。ここ

まで来たら、「こんなこともあるさ」と開き直るしかないのではないかと考えています。私もいろいろな所でお話をさせていただく際は、「今の状況はどうしようもない」とお伝えし、コントロールできることとコントロールできないことがある中で「今は皆さんにとって休止期間なのでしょうか、それとも準備期間なのでしょうか」と問い掛けるようにしています。「新型コロナを理由に休んでしまうのか」、それとも「今の困難を乗り越えた先を見据えて準備をしておくのか」、その差が今後問われてくると思います。その意味で「今何をしておくべきか」と言えば、いつの時代もそうですが、危機の時ほど“知恵と繋がり”が生まれます。「“知恵と繋がり”をきちんと地域の中で出していけたかどうか」が今後に繋がっていくのではないかと考えています。この後皆さんに2020年度の稲沢市の取組についてご審議いただきますが、「今後に向けた準備として十分なもののなか」、「それらを更に進めていくためにはどうすべきなのか」という視点でぜひ関連なご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、議事に入りたいと思います。

最初に協議事項（1）稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について及び協議事項（2）次年度の取組方針について、関連しますので事務局から一括して説明をお願いします。

＝ [事務局] ＝

【資料1「稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)の進捗状況(2020年度年次報告書)」及び資料2「稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)アクションプラン進捗状況(2020年度実績)」に基づき説明】

[委員長]

事務局からの説明が終了しました。ご意見、ご質問等がある委員は挙手の上、ご発言をお願いします。

[委員①]

2点お伺いします。初めに、資料2の13ページで「祖父江ぎんなんパーク」の説明がありましたが、年間の来場者数はどれくらいを見込まれているのでしょうか。

また、同じく資料2の15ページで国府宮はだか祭の説明がありましたが、今年度の来場者は何人だったのでしょうか。

[事務局]

「祖父江ぎんなんパーク」ですが、運用面について現在協議している段階です。そのため、入込客数の見込みも算定中となりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

[委員②]

2月24日(水)に国府宮はだか祭を開催いたしました。裸男によるなおい笹奉納やもみ合いはありませんでしたが、約6万人の方々にお越しいただきました。

[委員③]

資料2の20ページに、祖父江町商工会の取組として「国の補助事業により銀杏の有効成分を活用した機能性飲料4種類及びメガネフレーム2種類の試作品を開発」との記載があります。テレビ番組等でイチョウの葉っぱを使ったお茶の話は聞いたことがありますが、メガネフレームについてはイメージが湧きません。どのような品物なのでしょう。

[委員④]

経済産業省のJAPANブランド育成支援事業という補助金を活用し、銀杏の枝を使ったメガネフレームとして、男性用・女性用をそれぞれ試作しました。当初は鯖江の業者を予定していましたが、コスト面等で折り合わず、東京の業者に製作をお願いしました。銀杏の木には消臭能力があると言われていましたので、その効果への期待と共に、十分な強度も確認できたため、製作に至りました。しかし、結果としてかなりの費用が掛かることが判明したため、実用化し販路を見出すことは難しいのが現状です。

もう一点の機能性飲料については、飲みやすさを追求し、ヨーグルト味を始め4種類を製造しましたが、1万本を商品化しないと市場に出すことが難しいということで、初期投資がネックになっています。飲料については、来年度も研究を重ねていきたいと考えています。

[委員⑤]

資料1の1ページに、計画の成果指標として「稲沢市の観光振興に対する市民満足度」と「稲沢市に対して誇りや愛着を持つ市民の割合」が掲載されています。その中で2022年の中間値が矢印(ノ)で示されていますが、実際はどの程度の数値を予想されているのでしょうか。

また、2ページの一番下の箇所にも、参考指標として「市内観光消費額(一人当たり)」が掲載されており、同じように2022年の中間値が矢印(ノ)で示されていますが、どの程度の数値を予想されているのでしょうか。

[事務局]

2022年の中間値につきまして、本来であれば計画当初から段階的に増やしていく考えを持っていたところですが、市内観光消費額を始めとする2020年の実績値を見ますと、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた結果となっています。新型コロナの終息時期が見通せない中、今後の観光の動向も予測しにくい状況にありますので、中間値につきましては、来年度以降に予定されている計画の中間見直し作業の中で精査していきたいと考えています。そのため、今の段階で具体的な数値を申し上げにくいのが現状ですので、ご理解いただきますようお願いいたします。

[委員長]

目標ですので、目安となる数値を入れておくことが必要と考えます。それを含めて、今後検討していくという理解で良かったでしょうか。

[事務局]

はい。

[委員長]

2022年に「市民満足度」は40%、「誇りや愛着を持つ市民の割合」は70%くらいを達成していないと、正直厳しいのではないかと考えます。また、市内観光消費額も3,000円くらいを目標に取組を進めていくことが必要と考えますので、中間値についてぜひ設定していただきたいと思います。

[委員⑥]

資料2の4ページに、主な取組として「観光案内看板や施設内誘導看板などの整備」、「デジタルサイネージの設置と活用」、「観光関連施設におけるWi-Fi環境の整備」が掲げられています。実はそぶえイチョウ黄葉まつりの期間中、当院へ来訪された方々から祭り会場等への道を尋ねられることが多く、私共で独自に地図を作成して案内に努めてきました。そのため、会場や黄葉スポットへ導く誘致看板がもう少し必要ではないかと思えます。

また、今後の提案となりますが、「祖父江ぎんなんパーク」にイチョウの説明看板を設置してはどうかと考えます。昨今美術館等へ行くと、作品の説明板の中にQRコードが張り付けてあるのをよく見かけます。それをスマートフォンで読み取ると、詳しい解説を読むことができます。こうした非常に便利な機能もありますので、ぜひ参考にさせていただき、誘致看板やデジタルサイネージの整備に取り組んでいただきたいと思えます。

[事務局]

「祖父江ぎんなんパーク」は今年の6月オープンということで、現在整備のほぼ最終段階に入っています。市役所農務課が所管しており、園内看板として銀杏の解説板と周辺マップの設置が計画されていますが、いずれの看板にもQRコード等は付いていないようです。

昨今次々と新たな情報発信ツールが出てくる中、当然のようにQRコードも活用すべきではなかったかと思えます。市全体の情報発信のあり方も含めて今後の課題とさせていただきたいと思えます。

[委員長]

商工観光課が担当していれば、おそらく出来た話だと思います。同じ組織内でも部署を跨ぐと「意識が共有されない」ことが多々ありますので、「市民が求めていること」や「市民にとって使い勝手の良い情報発信の方法」について、商工観光課からぜひ各部署に呼び掛けていただきたいと思えます。急にやることは難しいかもしれませんが、こうした会議の場に出た意見や市民のニーズを汲み取れる体制を作っていただきたいと思えます。声を発し続ければ改善されていくと思えますので、よろしくをお願いします。

[委員③]

「祖父江ぎんなんパーク」への誘導の観点から、現地にバス停を設置して森上駅からコミュニティバスを走らせると、皆さんが簡単に行くことができるのではないかと思えます。

また、資料2の12ページに、「祖父江ぎんなんパークで銀杏の収穫体験を今後実施予定」との記載がありますが、銀杏は収穫してからの作業が大変で、粉をまぶしたり、乾燥させたり、選別

したり、箱に詰めたりと、出荷に至るまで様々な工程があります。収穫だけでなく、そうした作業があることを知ってもらい、見てもらうことも必要ではないかと思います。

[委員④]

「祖父江ぎんなんパーク」の管理について、来年度から祖父江町商工会が委託を受ける方向で現在調整を進めています。その中で、あの場所を黄葉期間以外にも賑わいの拠点とすることを目的に、祖父江の銀杏の魅力を知っていただく機会として、年に数回園内での銀杏の収穫体験を企画したいと考えています。「落ちた銀杏を拾って、実を取って、乾燥させて、粉をまぶす」といった一連の作業を行うには割と期間を要しますので、果肉を取って乾燥する直前までの工程を体験していただくのが良いかと思っています。そして、収穫した銀杏を出来れば参加者の皆様に無料で配布できるよう調整していきたいと考えています。体験機会は何回かに分けて設ける予定ですが、それぞれ参加人数に限りがありますので、まずは収穫体験をメインに取り組んでいければと考えています。

[委員⑦]

ご意見のとおり、枝になっている銀杏を揺すって落とし、それを拾うだけの収穫体験では物足りないとも思いますので、地元の生産農家の方々の協力を得ながら、皮を剥いたり、選別したりといった工程の体験も今後検討していきたいと考えます。

[委員⑧]

資料2の23ページに「アンケート調査等による市民意識の把握」、「来訪者等に対するマーケティング調査の実施」が記載されていますが、これらの調査結果を公表していただくことは可能なのでしょうか。「どんな人がどんな目的で来ているのか」、「若い人なのか、年配の人なのか」、来訪者の性別や年齢、目的等、現状をきちんと把握しておくことが今後の戦略を立てていく上で非常に重要だと思います。実態を把握することで、仮に若い人たちに来てもらいたいのであれば、「もっとSNSを活用すべき」といった具体的な手法を考えていくこともできます。したがって、アンケート調査を実施する際は、マーケティングの視点をしっかりと持たれると良いのではないかと思います。私自身もマーケティングの専門家なので、ご協力できることが多々あると思います。また、私個人だけでなく、大学として学生たちも絡めながら取り組んでいくことも可能ですので、そうした取組を今後充実させていけると良いのではないかと考えます。

[事務局]

委員ご指摘のとおり、マーケティング分析が非常に重要であることは認識しています。私も昨年の4月に稲沢市観光協会に赴任し、そうした調査が十分にできていないと感じています。稲沢市は祭りやイベントの時以外の観光客の入込が少なく、市民以外を対象に「どこでどのように調査するのか」といった具体的な方法が現時点でも解決できていない課題となっていますので、ぜひお知恵を拝借できればと思っています。

また、調査の方法として、コロナ禍ということもあり、QRコードを用いてスマートフォンから気軽に回答できる非接触型のWEBアンケート調査を今年度導入しましたが、もう少し具体的に掘

り起こしたフェイス・トゥ・フェイスでのアンケート調査も状況を見ながら実施し、定量的と定性的の両面から取り組んでいきたいと考えています。先ほども申し上げたとおり、祭りやイベントの時には消費額も含めた観光客の動向把握が可能になりますが、日常的なところで「稲沢市にどういう人が、どうやって来て、どういう行動を起こしているのか」を把握することは難しい状況です。ビッグデータを収集すれば可能になるかもしれませんが、相応の費用が掛かりますので、限られた予算の中でもう少し手軽にできる方法が無いか、ぜひご教示いただけると助かります。

[委員長]

ぜひ連携しながら考えていただきたいと思います。

[委員⑨]

稲沢市は当社の沿線に位置する関係から、日頃名鉄ハイキング等で市内各地を巡らせていただいております。多くの方々にハイキングを通じて稲沢市にある様々な素材を楽しんでいただいております。我々としても非常に重要な地域であると位置付けています。

他の沿線観光地にも言えることですが、まずは地元の方々にしっかりと足を運んでいただき、その後徐々に地域外の方々を呼び込んでいくことが必要と考えます。冒頭の成果指標のお話にもありましたが、地元の皆様が稲沢市に対して誇りや愛着を持つ気持ち、「自分たちも行ってみたいし、他の人にも来ていただきたい」と思っていたことが一番だと思います。我々としても、沿線の自治体としっかりとタイアップし、沿線外を含む多くの地域からお客様にお越しいただけるよう取り組んでいきたいと考えています。私ども名古屋鉄道を上手く活用しながら誘客に取り組んでいただければと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

[委員⑩]

先ほど話に出ました銀杏の収穫体験ですが、「銀杏を触って皮膚炎を起こされる方もいる」という話をよく聞きます。体験となると、いろいろな方がお見えになるので、健康管理面での対策も講じていく必要があると思います。

[委員長]

その辺りの対策について、既に現場ではデータ収集等を含め、しっかりと準備が進められているのでしょうか。

[委員④]

専門家の方に指導をいただきながら、収穫体験を実施する予定です。ビニール手袋を必ず用意し、それをはめた状態で収穫していただく形を考えています。

収穫体験について先ほどの補足になりますが、祖父江町商工会では銀杏の硬い殻を割る機械、さらに中の薄皮を高速で剥く機械を持っています。加工用の剥き銀杏も商品として出荷していますので、加工品に至る工程を見学いただくことで、銀杏に対する理解を深めていければと考えています。

[委員長]

お客様への注意マニュアルのようなものを作成しながら実施していただくと良いのではないかと思います。それを担うのは稲沢市観光協会なのか、祖父江町商工会なのかは分かりませんが、知恵が分散しないように連携しながら準備を進めていただければと思います。

[委員②]

国府宮はだか祭について、昨年来のコロナ禍の状況の中で、当社としましても11月半ばの段階で「裸男による笹奉納ともみ合いの中止」を決定いたしました。

こうした状況もあって、正月は例年であれば元日に10万人の参拝者数を発表しているところですが、今年は半数の5万人という結果でした。実態を見ますと、ご年配の方々の参拝が無かったように感じています。「愛知県九社会」という熱田神宮を始めとする九社の会があるのですが、その会議の中でも「高齢者の参拝が無かった」という意見が大半でした。国府宮で見ますと、正月は若い世代、小中学生のお子さんを持つ世代の参拝が目立ちました。お参りいただいた後、参道の出店に寄っていかれる方々が多かったように思います。その一方で、正月は天気が悪かったので、参拝を控えられた方も割とあったかもしれません。そして今年のはだか祭ですが、先ほど約6万人の参拝者がお見えになったと申し上げましたが、こちらも高齢者の方々が少なかったように感じました。ただし、高齢者の皆様はお参りに来なかったかと言えば、そうではなくて、平日や参拝者が少ないであろう日を選んで来られているようでした。

話は変わり、先ほど「いなざわ観光まちづくりラボ」の事業として「稲沢市民大太鼓」をご報告いただきました。このイベントには私ども国府宮も協力させていただいたのですが、新規のイベントということもあり、参加してもらうための告知方法が難しいと感じました。当初の計画に比べて多くの参加者があったようですが、毎年行われているイベントに比べると集客に苦慮したように思います。SNS等を活用した効果的な告知方法を今後ご検討いただければと思います。

[委員⑩]

国営木曽三川公園の運営をしていますので、その関係でお話をさせていただきます。

サリオパーク祖父江内のワイルドネイチャープラザにある祖父江砂丘は、日本有数というより、おそらく国内で現存する最後の河岸砂丘として大変貴重な資源となっています。現在砂丘の保全と再生を目指して様々な取組を進めており、その中でボランティアの方々にお手伝いいただいたり、岐阜市で活動するビーチサッカーのグループから「稲沢市の砂丘をビーチサッカーの拠点にしたいので、何か手伝えることはないか」との申し出を受け、今後の展開方法について検討しているところです。

私自身、土木分野を専門としていますので、観光には若干疎いのですが、やはり「日本唯一」であることは大きなウリになると思います。その中で、ワイルドネイチャープラザですが、コロナ禍において一時閉園した時期もありましたが、入園者数を見ますと、例年と比べてそれ程変化がありませんでした。スポーツ利用やピクニック広場で自由にデイキャンプが出来るなど、広大な公園スペースの中で距離を取りながら安全に遊べることもあって、利用者があまり落ち込みませんでした。特に年度後半の利用者はほぼ横ばいでした。また、サンドフェスタにおいては、今年度は例年のように大きなイベントではありませんでした。展示した砂像を長い期間自由に見

られることもあって、2週間程で2万3千人の来場者があり、平日も含めて多くの方々にお越しいただきました。短期間で集客するイベントも効果的かもしれませんが、継続的に使える利用方法も非常に有効ではないかと考えます。ワイルドネイチャープラザの入園者数を見ると、昔は年間で数万人だったのが、今では数十万人にまで増えています。その利用目的のほとんどがスポーツ又はキャンプとなっていますので、アウトドアの観光資源として十分なポテンシャルを持っていると感じています。

[委員長]

サリオパーク祖父江については、効果的な取組をどんどん進めていただきたいと思います。

[委員⑫]

稲沢商工会議所では、資料2の中にも記載があるように、特産品を開発して認定商品としてPRする事業に取り組んでいます。しかし、なかなかヒット商品に恵まれず、「開発しても定着しない」、「売れない」ということで自然消滅する商品も多々あります。今唯一ヒットしている商品が、市内に事業所を持つオリエンタルカレーと一緒に開発した「いなっピー銀杏カレー」になります。この商品のみが安定的に売れており、他の商品は開発したものの定着せずに尻すぼみの状態となっています。そうした中でも、新しい商品を掘り起こしていく努力を続けていきたいと考えています。

また、当会議所では、今年度から産業観光という切り口での取組を始めました。今から14年前に稲沢市観光協会が設立された際、当時 JR 東海の相談役だった須田 寛さんにお越しいたき、「産業観光」をテーマに記念講演をしていただきました。「新しい観光の形を作っていくためには、今あるものに光を当てて、それを観光資源として活用していくことが大切である」とお話しされたことを覚えています。稲沢市には、エレベーター・エスカレーターを製造する三菱電機の工場やトヨタ関連の豊田合成の工場、その協力会社も多数あります。そうした会社に声掛けをし、工場見学や製品・技術のPRをさせていただく中で、稲沢の再発見に繋げていきたいと考えています。乳製品を製造する株式会社明治が市内に「明治なるほどファクトリー愛知」という見学施設を自ら持ち誘客に取り組んでいますので、それに倣う形で取組を進めていければと思います。

[委員長]

商工会議所が主導して産業観光に取り組んでいることを資料で拝見し、とても期待が持てると感じました。愛知県は産業観光をずっと熱心に語ってきましたが、いまいち盛り上がりませんでした。その理由は明らかで、企業側に取り組むメリットが無かったからです。ただし、先ほどの発言にあったように、自社の商品の宣伝だったり、従業員確保のための手段として、相互に理解し合える絵が描ければ、企業側も積極的に取り組んでくれると思います。そうした絵が描けないから、「やってください」と言っても、「やる意味が無い」と言われてしまい、立ち止まってしまいます。商工会議所は現場のニーズをきちんと理解されていると思いますので、お互い得になるような絵をぜひ描いていただきたいと思います。今後の活発な取組に期待しています。

[委員⑬]

2点お尋ねします。1点目ですが、この計画の肝となるのは、「観光によってまちづくりを行うこと」であり、それを「まちに住んでいる皆さん」、要するに「市民」自らがやることです。そうした意味で、「いなざわ観光まちづくりラボ」の活動は非常に重要であると感じています。メンバー専用の掲示板サイトが立ち上がり、来年度から新しく支援金制度がスタートするようですので、今後も引き続きメンバーの方々が気持ち良く活動できるように支援していただきたいと思います。資料1の7ページに、ラボのプロジェクトとして「つなごう つながろう稲沢」という情報発信サイトを活用した取組が紹介されています。先ほど「認知度を上げるために、このサイトをもっと活用していく」という説明がありましたが、情報発信はいつの時代も大事なものです。ただし、何でもかんでも情報を出すのではなく、「どこの」、「誰に」、「何を伝えるか」を考え、整理しながら情報を出していくことが必要だと考えます。ぜひこの取組を活性化していただきたいと思います。

2点目として、この計画の実施期間は10年となっています。計画の策定段階では、当然コロナ禍は予想していなかったと思います。しかし、コロナに関係無く、10年経てば観光を取り巻く状況はどんどん変わります。昨今で言えば、アフターコロナに関して「テレワーク」や「リモート」、「ワーケーション」といった新しい言葉が次々と出てきています。10年という長いスパンの中で、そうした部分も少しずつ計画に盛り込んでいく必要があるのではないかと思います。

[委員長]

計画の中間見直しは来年度の予定でしょうか。

[事務局]

10年という計画期間の中で観光を取り巻く環境は当然変化し、その中で「予想できたこと」と「予想できなかったこと」の双方が出てきます。新型コロナウイルスは、「予想できなかったこと」の一つだと思いますが、元々10年という計画期間を掲げていましたので、計画の中間見直しを当初より予定していました。時期としましては、今年度が計画3年目になりますので、折り返しの5年目となる再来年度が中間見直しのタイミングとなります。

[委員長]

先ほど委員がおっしゃられたようなキーワードは、おそらく毎年の施策の中に取り込んでいく形になると思います。大きな改定は2年後になりますので、施策の見直しの中で取り組んでいければと思います。実際に今年度、リモート等に対応した取組も出てきていましたので、今後も継続していただきたいと思います。

[副委員長]

3点申し上げます。初めに、アクションプランの進捗状況ですが、細かく調査して資料にまとめられていることに大変感心しました。委員の皆さんから「所々変えていく必要もある」というお話もありましたが、全体を通じてしっかりと取り組まれている印象を持ちました。その一方で、先ほど他の委員からもお話がありましたが、私自身も「稲沢市観光まちづくりビジョン」を見て、

成果指標の中間値の一部が矢印（↑）になっていることが気になりました。大澤委員長から「具体的な目標数値を入れた方が良いのではないか」というお話もありましたので、その点について十分見直しをされた方が良いと思います。10年計画の中で中間値だけ矢印（↑）になっているのは、毎年の進捗状況を公表していく中で、市民から「市はちゃんと考えているのか」と言われかねませんので、数値の進捗を測りつつ、毎年の施策を軌道修正していく必要があるのではないかと思います。先日、愛知県の新たな観光戦略が策定されました。策定に当たっては、大澤委員長が県の計画検討委員会の委員長も務められました。当初、愛知県は5年計画を予定していましたが、「コロナ禍における観光の状況をしっかりと見極める必要がある」との判断から、期間を少し短く取り、最終的に2021年から2023年までの3年計画にしました。こうした動きも参考にしながら、取組を進めていただければと思います。

次に2点目ですが、アクションプランの取組を見ると、個々の施設や場所に特化した取組が目立ちました。バスツアーや周遊ウォーキングに取り組むというお話も確かにありましたが、「稲沢市内に点在する観光施設をどのように繋いでいくか」、特定の観光スポットに誘客した際、その場所だけで完結させてしまうのではなく、別のスポットにも行ってもらう、次回もう一度来てもらうための仕掛けを作っていく必要があると感じました。市内の観光スポットを点ではなく、線として繋いだり、面として捉えるような取組も念頭に置く必要があると思います。「観光まちづくりビジョン」と掲げているように、観光とは「地域振興」であり、「まちづくり」ですので、ぜひ意識した取組をお願いしたいと思います。また、先ほど他の委員からバス停の話も出ましたが、稲沢市には独自にコミュニティバスがありますので、「どのようなルートを設定し、観光地を巡らせると良いのか」という視点で、交通事業者と話をすることも必要ではないかと思います。

最後に3点目ですが、稲沢市だけで観光に取り組むのは、今のご時世なかなか難しいと思います。愛知県だけで誘客することも難しい状況にありますので、例えば近隣の市町と連携して人を呼び込むことも、ぜひ視野に入れていただきたいと思います。

[委員長]

皆さんから一通りご意見をいただきましたので、以上で終了し、委員の皆様にお諮りします。

協議事項1「稲沢市観光まちづくりビジョンの進捗状況」及び協議事項2「次年度の取組方針」については、本日委員の皆様からいただいた意見等を今後の計画の取組に反映し、成果指標の達成に繋げていくということによろしいでしょうか。

<「異議無し」の声>

[委員長]

ご異議も無いようですので、事務局は本委員会の意見等を踏まえ、「観光まちづくりビジョン」の取組を更に推進していただくようお願いします。

(3) その他

[委員長]

続いて、協議事項3「その他」に移ります。

先ほどの協議内容に関わらず、ご意見やご質問があれば、ご発言ください。また、この機会に情報共有しておきたいことがあれば、よろしく願いいたします。

<意見、質問等無し>

[委員長]

特に無いようですので、以上で本日の議事を終了したいと思います。活発なご意見をいただき、ありがとうございました。

3 その他

[事務局]

ありがとうございました。本日いただいたご意見を踏まえまして、「稲沢市観光まちづくりビジョン」の取組みを引き続き推進してまいります。

それでは最後に、事務局から3点事務連絡をさせていただきます。

はじめに次回の会議についてですが、1年後となります令和4年2月下旬頃に開催させていただく予定です。会議の内容としましては、本日と同じく「稲沢市観光まちづくりビジョンの進捗状況」と「次年度の取組方針」についてご報告し、委員の皆様からご意見をいただきたいと考えております。会議の日程等につきましては、文書で改めてご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。

2点目としまして、3月6日（土）と7日（日）に愛知県植木センターで開催されます「第15回いなざわ梅まつり」のご案内です。昨年と同様、今回も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、集客力の高いステージイベントなどの催し物を中止し、梅の花の観賞を中心に楽しんでいただけるよう規模を縮小して開催することとなりました。会場内での飲食は禁止となりますが、ご来場の皆様楽しんでいただけるよう、稲沢市ならではの特産品や植木・苗木の販売など、感染予防対策を講じながら実施してまいります。お時間がございましたら、ぜひお出かけいただけますと幸いです。

最後に3点目としまして、本日の会議への出席に伴う謝礼につきましては、指定の口座へ振り込ませていただきますので、よろしくお願い致します。

以上をもちまして、会議を閉会させていただきます。本日は長時間にわたり慎重審議いただき、誠にありがとうございました。

以上